

倶多楽の火山活動解説資料（平成30年4月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①、図3～7）

23日、26日及び27日に実施した現地調査では、日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布¹⁾や火口の状況に変化はありませんでした。日和山山頂爆裂火口の噴気温度は134℃（昨年4月は136℃）で、2007年以降やや高い状態が続いています。笠山では、地表面温度分布に大きな変化は認められませんでした。地中温度は94℃（昨年4月は85℃）で2015年以降上昇が続いています。その他の場所では変化は認められませんでした。

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2-③）

GNSS²⁾連続観測では、2017年7月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられていますが、表面現象や地震活動に特段の変化は認められていません。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（平成30年5月分）は平成30年6月8日に発表する予定です。



図 1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（4月22日、414m山監視カメラによる）

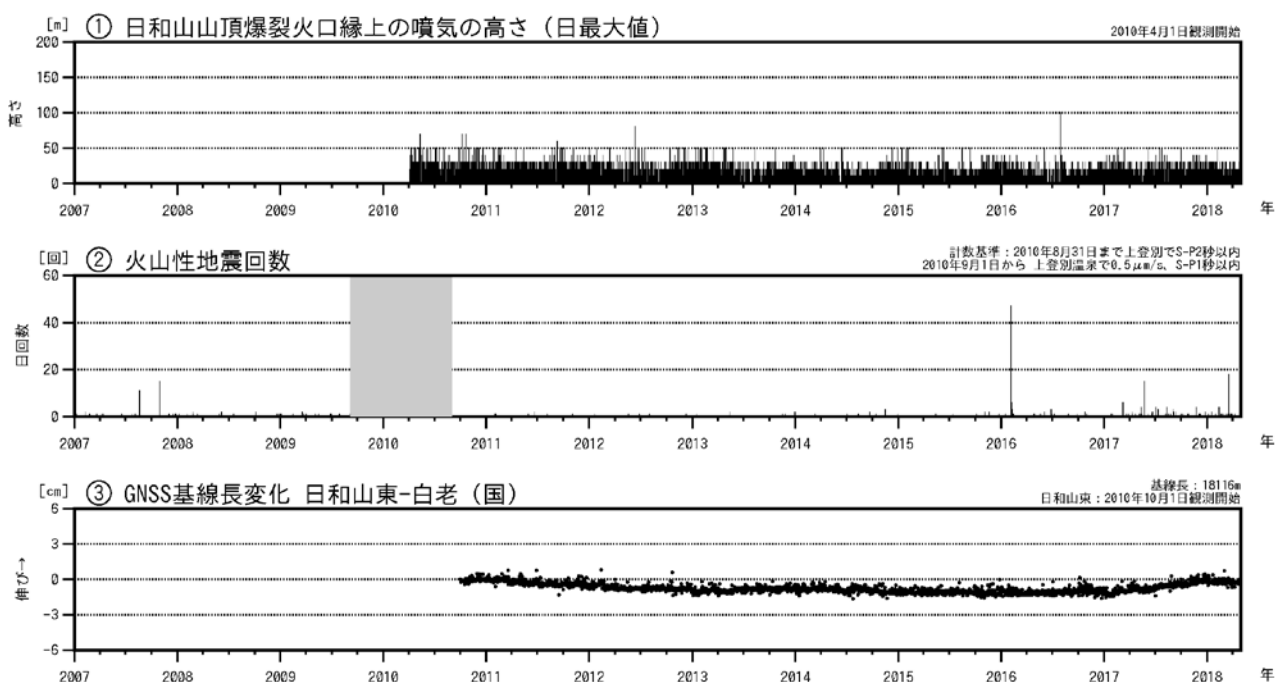


図 2 倶多楽 火山活動経過図（2007年 1 月～2018年 4 月）

- ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ・③のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・③のGNSS基線ではわずかな伸びがみられていますが、地震活動や噴気活動に変化は認められません。

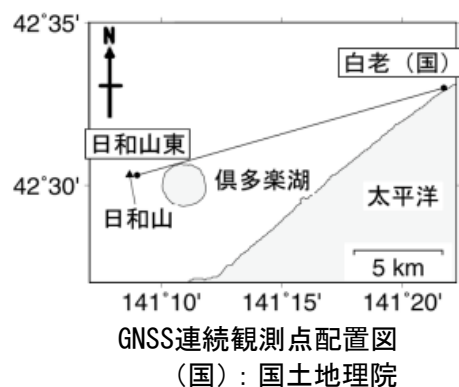




図3 倶多楽周辺図と写真の撮影方向（赤矢印）

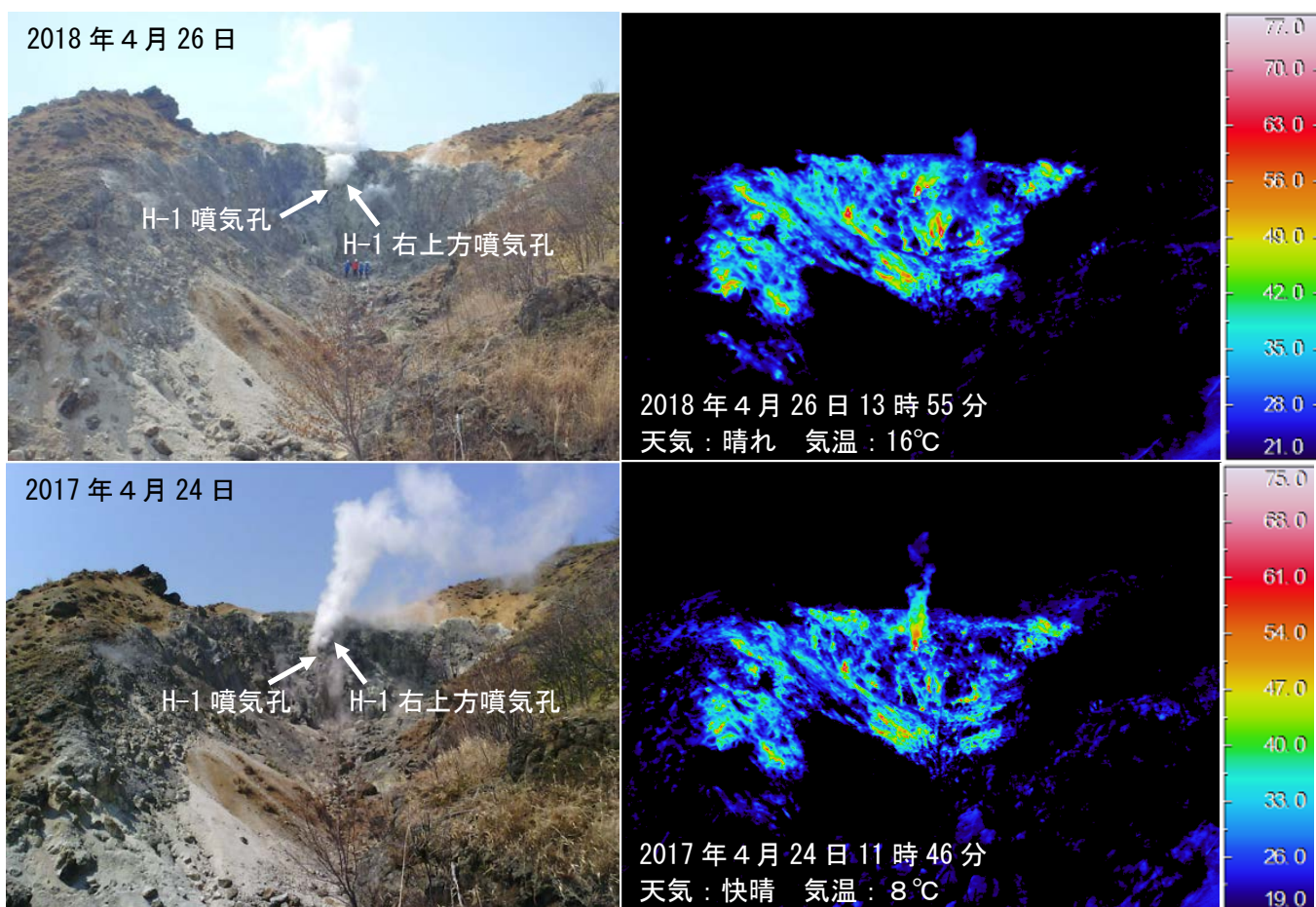


図4 倶多楽 日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布 東側（図3の①）から撮影
・前回（2017年4月24日）の観測と比べて変化はありませんでした。

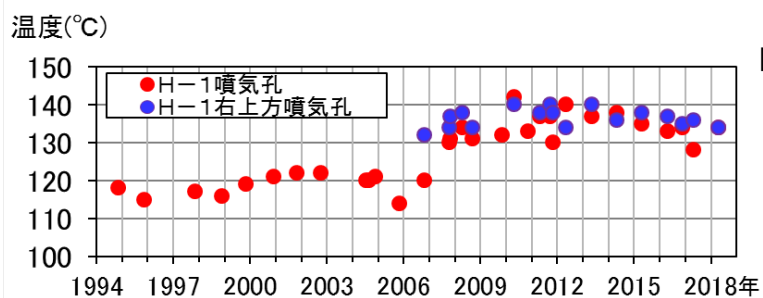


図5 倶多楽 日和山山頂爆裂火口北西側
噴気孔の噴気温度の推移
（1994年～2018年）
・前回（2017年4月24日）と比べて
変化はありませんでした。
・2007年以降やや高い状態が続いて
います。

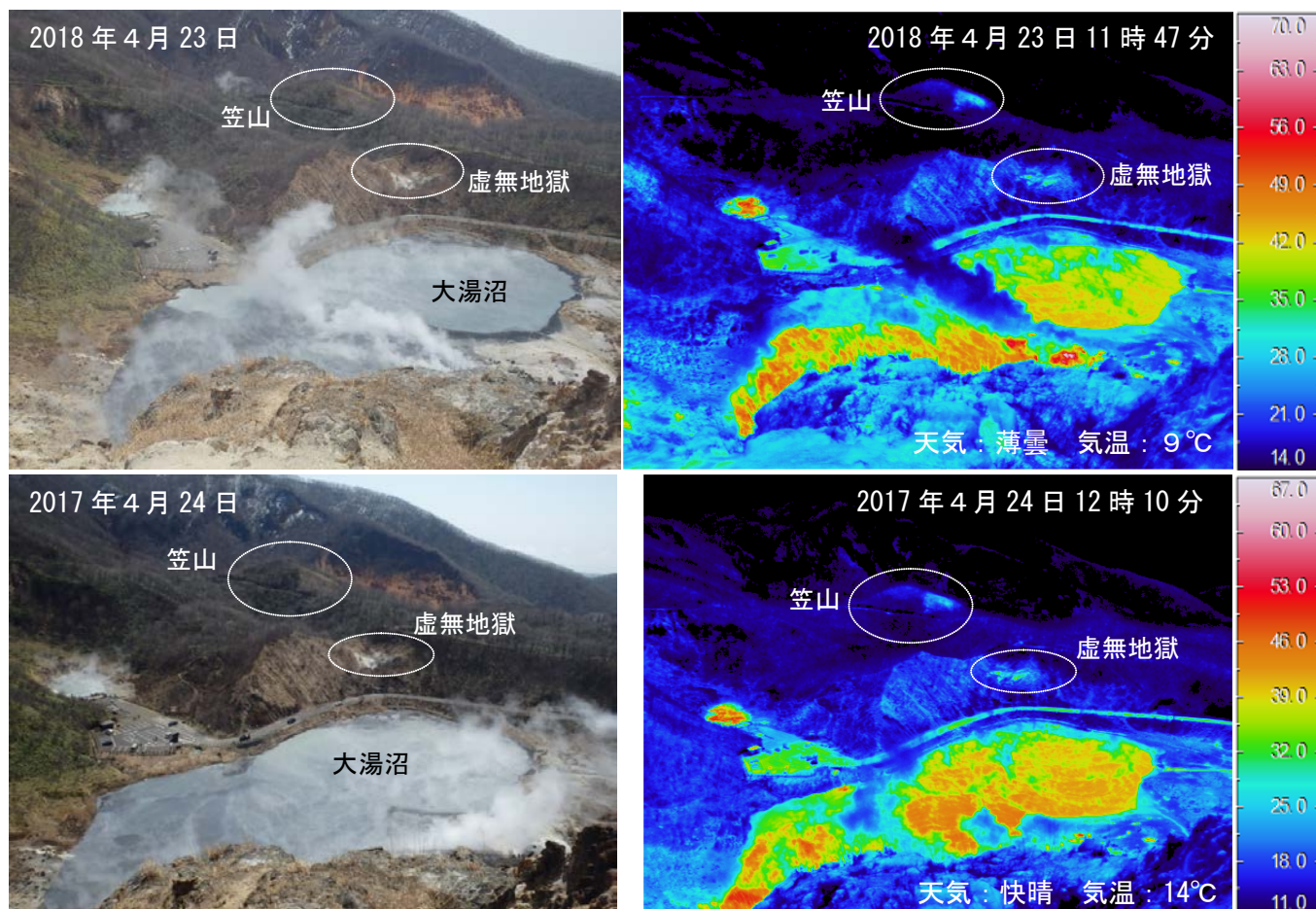


図 6 倶多楽 笠山、虚無地獄、大湯沼の状況 北西側（図 3 の①）から撮影
・笠山と虚無地獄の地表面温度分布は前回（2017年 4 月 24 日）と比べて変化はありませんでした。

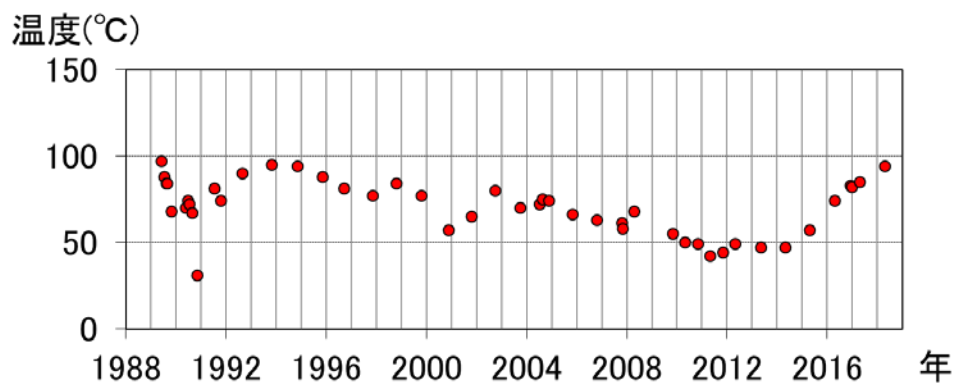


図 7 倶多楽 笠山の地中温度推移（測定深度：50cm 1989年～2018年）
・笠山の地中温度は2005年頃から低下傾向を示していましたが、2015年以降は上昇が続いています。
・笠山ではこれまでも地中温度の変動が観測されています。

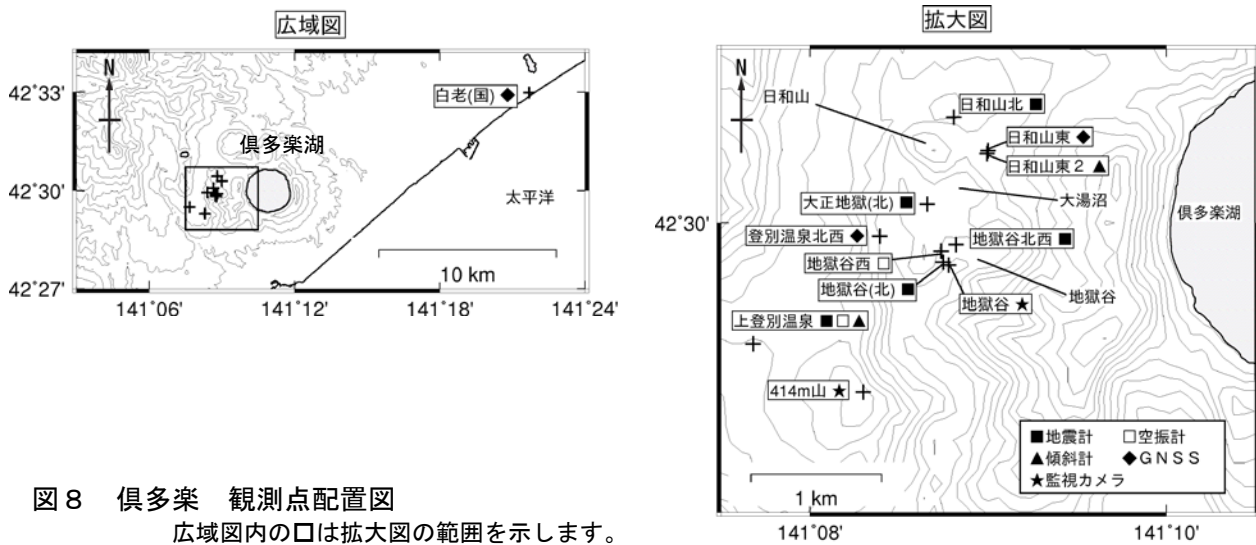


図 8 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学